技報第 19 号

巻頭言

「企業の存続価値について」

代表取締役副社長　土木本部長
蔵本 修

新型感染症の影響で新体制になってから，従業員の皆さんに我々の思いを直接伝えることがなかなかできていませんが，2020 年 4 月 1 日，森社長の就任挨拶の主旨は以下の 2 点でした．

「新しい領域への挑戦を具体化させ，経営を支える柱に成長させる」

「今よりもっといい会社をつくるために」

最初の社長メッセージは「当社のあるべき未来像」を示しており，数多ある建設会社のなかで他社にない特徴（尖ったところ）を武器にさらなる発展を目指すものです．当社の「尖ったところ」の 1 番目は PC 技術のトップカンパニーであることです．当社を取り巻く土木事業環境はすでに新設橋梁建設から橋梁の更新・修繕工事へと質的変化をしています．一方，建築事業においてもプレキャスト PC 構造は常に鋼構造や RC 構造との比較対象として採用の可否が検討されています．したがって，今後もこの「尖ったところ」を最大限に活かして当社の存在感を示さなくてはいけないという社長メッセージです．

前述したように当社に関わる土木事業では橋梁の更新・修繕工事が急激に拡大し，工事が大型化，長期化しているため，大手ゼネコンをはじめ多くの建設会社がこの分野への積極的な進出を図っています．これに対する当社の方針は長年 PC 橋梁建設分野をリードしてきた実績から橋梁の更新・修繕分野においてもトップカンパニーを維持することです．そこで必要なことのひとつが「事業環境の変化を先取りした他社に負けない技術・施工開発」です．技術・施工開発は技術研究所や技術部門だけで行うのではなく，全従業員の力を集約して創り上げていくものです．幸いにして当社グループには PC の原理や特徴を十分に理解した構造物に強い従業員が多く在籍しています．これも当社の「尖ったところ」のひとつです．この他社にない人的資源を最大限に活かして「当社のあるべき未来像」を創り上げていきましょう．

次の社長メッセージの主旨は取り巻く環境や社会が変化していく中で，現状の制度や体制がマッチしていない部分に対して時代に合った新しい制度・体制をつくり上げていくことで「社員が安心して働ける会社であること，そして，仕事への誇りとやり甲斐を感じられる会社であること」を目指すものです.

話は変わりますが，世界中で200年以上存続している会社は5,500社程度，その内，日本の会社が3,000社以上を占めるといわれています.「古ければ良い会社ですか？」と反論されるかもしれませんが，日本のように経営者と従業員が一体となった経営では企業が存続することは従業員にとっては大事なことだと思います．存続することにより「従業員が安心して働くことができ，仕事に誇りややりがいを持てる会社」になれると思います.

ところで，これら何百年も続く日本の老舗には共通のものがあるようです.

① 創業の理念を大事にしながら時代の変化を先取りしていること

② 社長から従業員までが目標に向けて情熱を共有していること

③ 慢心や傲慢こそが企業発展の妨げになることを熟知し，常に謙虚であること

④ 誠実であること（約束を守る，迷惑をかけない，嘘をつかない，卑怯なことをしない，など法律にはない当たり前のことを判断基準としていること）

多くの企業で不祥事が表面化している昨今，一度立ち止まって，これらのことができているかどうか振り返ってみてください.

さて最後に表題の「企業の存続価値について」少し説明させていただきます.

最初の社長メッセージは顧客や社会に対して当社の存続価値を認めてもらうことです.すなわち，技術立社である当社は常に時代の変化を先取りし，技術・施工開発を続けながら建設事業を通して発注者，顧客，社会から「技術と経営に優れた必要な会社」として認めてもらいたいとの思いです.

ふたつめのメッセージは当社グループの従業員や当社と一緒に仕事をする協力会社のみなさんに対して存続価値を認めてもらうことです.「当社で働いて良かった，当社と一緒に仕事をして良かった」と思ってもらうことこそが企業の存続価値だと思います.

2021年9月